

## ⑦ 若手職員のみで企画・活動した建設業担い手確保への取り組み

受賞機関 国土交通省 中部地方整備局  
静岡河川事務所（若手職員）

**キーワード** 建設業の魅力発信、若手職員の企画、ターゲットの絞込み

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

将来の建設業の担い手になり得る学生に建設業の魅力や仕事の内容を知ってもらう説明会を若手職員が企画・実施した取り組み。進路に迷っている普通高校や予備校の生徒にターゲットを絞り、それを高校生と年齢の近い若手職員で行った点が効果的と考えられる点や、若手職員の作戦会議や説明会の様子を取材してもらい、新聞を通して建設業の魅力を一般の方々にアピールした点が評価された。

### 1. はじめに

建設産業の現状として、「担い手不足」が深刻な問題となっている。その理由として、職員が業界を離れる、若手が入ってこないといった若年層の建設業職者の減少の顕在化、建設業界の3K（きつい、汚い、危険）のイメージ、他産業に比べて基本的な福利厚生が徹底されていない、などの原因が考えられる。特に、10年後には高齢化に伴い、大量の建設業職者が離職すると予想されており、若年入職者の確保・育成は喫緊の課題である。

以上の背景を踏まえ、静岡河川事務所の若手職員で何か出来ることはないかと考え、進路選択に迫っている学生を対象に建設業界の魅力を伝えるとともに、担い手確保を目的とした外部説明会を企画、実施した。

### 2. 事業の概要

この企画は平成29年度から実施しており、普通科高等学校、大手予備校、農業高校へ外部説明会を行った。県内の高校及び予備校をリストアップし、電話及びチラシ配布、説明に出向き、協力の依頼を行った。特に土木系の学校ではなく、進路（学部）選択に迫っていると思われる普通科高等学校や様々な学校から集まる予備校の高校1、2年生をターゲットとした。



学生からの質疑応答の様子

また、記者投げ込みを行い積極的に、若手職員の作戦会議（企画）の様子や説明会の様子を取材して頂き、建設業の魅力について新聞等を通じ一般の人に知ってもらった。



新聞記事

### 3. 事業の成果

就職や進学に迷っている高校生に建設業の魅力を伝え、進路選択のきっかけをつくることができた。授講後の高校生からの感想として、「力仕事のイメージが強かったけれど、事務職があることやロボットの使用など、女の自分にとって全く違う世界というわけではないと分かり、1つ将来の選択肢が増えた。」「今まで建築の方に興味があったけど、今回お話を聞いて「建築土木」も面白そうだなあと、新しい分野に興味を持つことが出来たのでとてもいい機会になった。」などの感想をいただいた。学生の年齢に近い若手職員が自らの体験や、志望動機などを話すことにより、より身近に土木の魅力に感じてもらうことが出来た。

### 4. おわりに

本取り組みについて、新聞報道を通じ、高校生や予備校生の他にも、保護者を含めた一般の方にも魅力を伝えることができた。

今後も建設業の担い手確保を目的とした講演会を継続するとともに、地域との交流を通じて信頼関係を高め、相互理解の増進に寄与できるよう企画していく予定である。